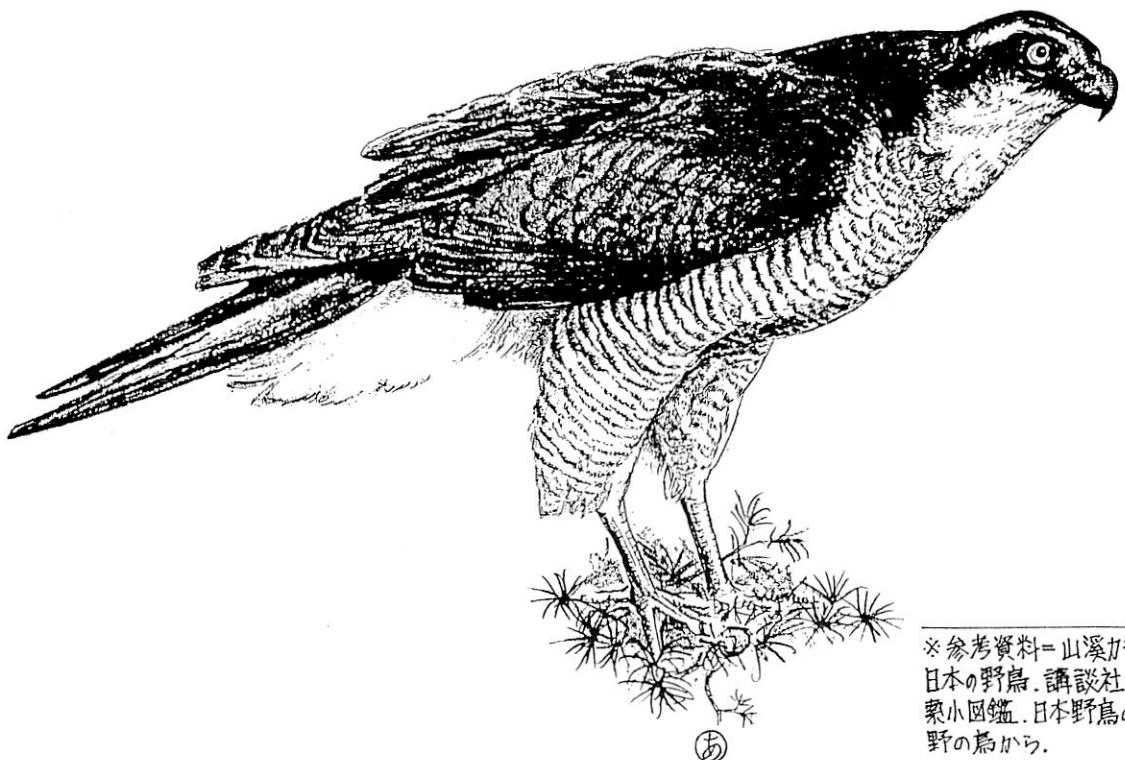


# 協議会ニュース

74号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1999. 7



※参考資料=山溪カラー名鑑  
日本の野鳥. 講談社 野鳥検索小図鑑. 日本野鳥の会. 山野の鳥から.

“里山の生態系の頂点に立つ”オオタカ (ワシタカ科)

全長・雄50cm 翼長・雄110cm/ 雌56.5cm. 130cm

今話題のオオタカはスマートな体に長めの尾羽。背面は暗青灰色。白い腹面にこまかい黒小斑がある。飛んでるとき下から見ると、細かい横斑と尾羽の黒いバンドが目立つ。

## 哺乳類の話 (NO. 2)

山田一孝 (名古屋支部)

### 〔生存と活動の痕跡＝フィールドサイン〕

さて、前回の問い合わせ、「野生動物の観察の場合、実物の姿を見ることは期待出来ないのが普通。では代わりに何を観察するか?」のことです。

自然観察指導員諸氏ならば、この答えは先刻ご承知のことと思います。ですから、今さら「足跡や糞を始めとする動物の生活・活動の痕跡をフィールドサインと総称する。たとえばタヌキの足跡の大きさは……特徴は……」などと初心者向けのような解説をここで述べ立てるのは、釈迦に説法というものです。第一、野外用の図鑑などでもそういった情報が充実していますし、中にはフィールドサインだけの専門書も発行されていますから、個々の種についての情報はそれらの資料を参照されるのが最良と思います。そこで、今回は私が出会ったフィールドサインにかかる出来事のいくつかをお話します。

### 〔落とし物といえば…〕

冬の山のことです。雪原は根雪となり、硬く締まっていました。前夜、風が吹き荒れて表面の新雪を吹き払い、その硬い層が露出しています。そこはヒトが歩いても沈まず、もちろん野生動物の足跡はまったく見えません。彼等の体重程度では爪の跡すらつかないほど、吹雪が磨き上げた雪面は硬く平滑です。ごくたまに見つかるのは、雪面に半分沈み込んだ形の糞と、滴が穴を穿ったと知れる尿の跡です。それらは、排泄された直後はホカホカのために熱が雪を溶かして窪ませ、そのままのくぼみの中で凍結しています。

こうして、雪原でみつかることが多い糞と尿痕は、多くはキツネとノウサギのもので、

他にはテンなどのものも見ることができます。糞と尿には色があるので、真っ白い雪原の中でボツンと黒や褐色の点となって遠くから見えたり、あるいは黄色や赤っぽい染みになって目立ち、発見は簡単です。コチコチのかりんとうのように(ノウサギの場合はマーブルチョコのよう)凍り付いた糞は臭いもなく、つい指でつまんでしまいたくになりますが、溶ければもとどおりの糞なのですから要注意です。採集する場合は、周囲の雪をピンセットでコツコツ割って雪に包んだ状態で剥がし、チャック付きのビニール袋に密閉します。なお、これを持ち帰る場合ですが、上着のポケットに入れたりすると体温で解凍されて、密封されているとはいえ、臭いが漏れていますので、必ずザックの外側のポケットか別の手下げ袋などに入れて、溶けないように外気温にさらしておきます。なお、山での滞在が数日に渡る場合にこれらの標本を保管するにも、小屋やテントの外の日陰に雪穴を掘って冷蔵すると取扱が楽です。こうして採集した糞は、後日水で洗って漉し、食性分析をします。

ここまで読んでお気づきだと思いますが、雪ごと採集することで野生動物の尿を持ち帰るのも冬の山なら可能です。夏の山では地面にしみ込んでしまうものが、雪にしみ込んで凍結保存されているわけですから、周囲の雪ごとごっそりと切り取り、大きめのビニール袋などで運びます。もちろん尿を持ち帰っても、化学分析までしようというわ



けではありません。

持ち帰って欲しい情報は、実は「臭いと色」なのです。糞の匂いも尿の匂いも、種ごとに特徴を持っていて、どの動物のものか識別の手がかりになります。一番分かり易いキツネならば、一度記憶してしまうとどこに行っても風に乗って漂ってくる臭いで、そのあたりにキツネが生息しているかどうか見当がついてしまいます。また、ノウサギでは発情したメスは尿の色が劇的に変わります。そんな「赤ーション」といわれる真っ赤な尿痕を観察会などで発見したとき、持ち帰って参加者全員に示すことも雪山でならば可能です。

### 〔足跡なのに凹んでいない？！〕

足跡がまったく見えず、ときおり糞だけが忽然と落ちている。吹雪の後の雪原を進むうち、ようやく前方に規則正しく並ぶ点線のような跡を見いだしました。足跡のようです。ただ、そこは風のまともに吹き付ける斜面で、雪面がひとときわ硬い場所だったのですが、しかし近寄ってよく見れば、やはりキツネの足跡に間違いありませんでした。4本の爪とそれぞれの肉球に手の平にあたる大きめの肉球がひとつ、くっきりと形が残り、それが歩行の様子を示してやや千鳥となった一列に並び、斜面を斜めに登りながら続いています。ところが、奇妙なことにその足跡は雪にもぐったへこみではなく、ひとつひとつが平らな雪面から盛り上がり。浮き彫りのレリーフをそこに置いたようになっていました。

子どもの頃、地面の向こうにもうひとつのこちらと同じ世界があって、こちらで盛り上がりで地面が向こうでは凹んでいて、そして自分の立っているこの地面が、厚みというものが無い境界面であって、自分が足を置いて立っている場所に向こう側のもう一人の自分が逆さまになって足の裏を合わせた姿勢で同じように立っているのでは……、そんな想像というか妄想に囚われた思い出があるのです

が、目の前の足跡

の浮き彫りは、雪  
面の裏側のもうひ

とつの世界を歩いたキツネの足跡がこちら側に浮かび出たものではないかと本気で信じたくなります。

いっしょに歩いた仲間と、これはいったいどうしたらできるのかを推理した結果、どうやら新雪と風のいたずらだろうという結論に落ち着きました。まず、この足跡はさほど新鮮なものではなく、少なくとも数日前のものようです。吹雪の前の風のおだやかな日、根雪の表面に新しい雪がうっすらと積もりま

した。その夜、その新雪の上をキツネが歩き、新雪を踏んで行きます。硬い根雪との間で踏みしめられた新雪は根雪に足跡の形どおりに付着し、その後、風が吹き荒れると、周りのふんわりと積もった新雪は吹き飛ばされ、踏み込まれた足跡の形だけが根雪の表面に切り抜いて張りつけられたように並んだのではないか、そう納得することにしました。そして、それと気づいて振り返ってみれば、それまでの足跡がまったく無いと思って通り過ぎていた場所にも、わずかな雪面の波打ちや筋状のでこぼこがあるではありませんか。もう吹雪が切り取って足跡の形はしていませんが、そんなわずかな痕跡を目で追ってつなげていくと、等間隔で一列に並んで、足跡として読みとることができました。

自然の中のフィールドサインは常に豊富にそこにあるのですが、読みとる眼がなければ、それと気づかないものようです。

〔訂正〕 前回72号の文中に誤植がありました。2列目19から20行目、「エゾカモシカ」は「エゾシカ」の誤りです。

## トウキョウサンショウウオを守るために ATSネットワークに参加して下さい

大竹 勝(会長)

東京では、1998年都内自然保護団体及び市民の参加で「トウキョウサンショウウオ探検隊」が組織され、都内全域の卵嚢調査が行われ、産卵場所213か所、卵嚢4701個、成体138頭が確認され、生息個体数4700頭と推定されました。それを受けて今年はその現状を広く知らせるためにシンポジウムが開催されました。(川上洋一他:もう東京にはすめないの?トウキョウサンショウウオの悲鳴が聞こえる。サイアス。4.1999, 朝日新聞社)



愛知県下では知多半島部は高津英夫氏による長年の調査で産卵数の推移、環境条件の把握などが行われていますが、これ以外にはこのような調査がなく、県下の生息状況が明らかではありませんが、愛知県個体群の方が東京よりはるかに悪い状況にあると考えられます。愛知県の個体群はいまや絶滅の危機にあるとも言えます。レッドデータブックでは地域個体群として掲載されていますが、絶滅危惧II類、場合によってはI類に掲載されるべき種と考えられます。各生息地では保護の重要性を感じた人たちで個人的に調査が行われているだけで愛知県の個体群としての全体像がはっきりしていません。また今年大森で卵嚢消失、猪高緑地で工事の関係で成体24の大量死をまねくなどなど異常事態が発生しました。思い違いや、情報伝達の行き違

いなどの個人的にトラブルの発生があるなどの問題もあり、トウキョウサンショウウオについて関心のある方々の共通の認識を持っていただるために、3月28日県産業貿易館で、愛知県自然観察指導員連絡協議会のトウキョウサンショウウオに関係した方々を中心に10名が集まり話し合いをいたしました。ここで各地の現状報告などを聞き、今後観察者間のネットワークを作り、県下の現状の共通認識を持ち、今後の観察や、保護について考えることにしようということになりました。県内在住者でトウキョウサンショウウオに関心のある方々の参加をお願いいたします。

情報は産卵数の把握による分布域の確認、生息個体数の把握、研究調査の把握、標本の所在確認、生息地の環境改変情報の把握など、トウキョウサンショウウオに関する個人情報をまとめて、共通認識を持ち、今後の保護活動に役立てる目的です。

トウキョウサンショウウオの情報をお持ちの方や関心のある方は下記連絡係まで連絡して下さい。当分会費は不要です。

■484-0094 犬山市塔野地寺田52

TEL/FAX 0568-61-3659 大竹 勝



## 生ごみのリサイクル

### 編 集 部

藤前干渉の埋立て問題を契機にして、ごみ問題への関心が高まっています。特に、名古屋市が埋立てを断念して以来、ごみ非常事態宣言が出され、名古屋市が増加一方のごみをどう減量するかが重要な課題となっています。しかし、ごみを出すのは私たち市民一人ひとりです。一人ひとりがごみ排出量を抑えることが結果的に全体のごみ量を減らすことにつながるので。

行政の施策を待っているだけではなかなか解決になりません。私たちは、観察会を行うあらゆる場所でごみを目にします。観察会でもっとごみについて話す機会を増やしていくことが必要だと思います。協議会ニュースの70号でもごみについて載せましたが、今回はその続きです。



## 1 「森に学ぶ～ごみになるものは家に持ち込まない～」

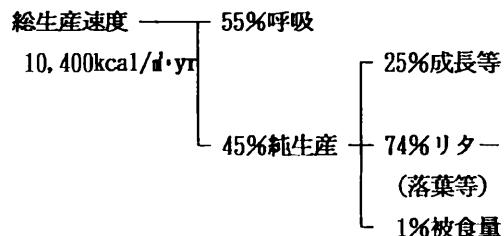
森の中でできたものは、森の中で処理されることは、自然観察会などを通して学ぶことができます。森の生態系には、植物=生産者、動物=消費者、微生物=分解者という役割が整っているからです。雑木林の観察をしていて、空き缶やビニール袋などが目立ちますが、これらは放っておけばいつまでも自然にかえることができます。枯れ葉や小枝と人工物であるビニール袋の分解の様子を比べてみれば明らかです。観察会ではどんなものが自然にかえりにくいか

探してもらうこともできます。また、人工物であるビニールなど分解した後も自然物と違って無害なものにはならないでしょう。

森の生態系では、生産者、消費者、分解者が備わっていますが、人間社会ではどうでしょうか。一つの町の生態系ならぬ生活形を考えてみた場合、何が生産者で、何が消費者で、何が分解者でしょうか。

自然との大きな違いは、一つは消費者があまりに多いことです。自然では下の図のように生産されたものごく一部しか消費者は使いませんが、人間社会では生産されたものほとんどが消費されます。その結果ごみが大量に発生します。

## 《森での生産》



\*量的に見れば、生物の食べる量は無視してもよいくらいで、森林は地上の植物と土壤生物の組み合わせで機能しているともいえます。

二つ目は、自然界では処理できない人工物が多いことです。電気製品や家具など見ればすぐわかるでしょうが、衣服でも昔の天然素材とは違った人工の素材が一般になっていますし、調味料などにも化学製品が多くなっているように思われます。こうした人工物は自然には処理できないため、再利用できなければどこかに捨てるしかありません。

三つ目には、森の中では分解者はどこにでも

いるのに対して、人間社会では1か所に集めて処理することが普通です。少ない量だと簡単に処理できるものでも大量に集めればその処理は大変になります。こうしたことから森にならって生活形を少しでも望ましい方向へもっていくには、消費者である家庭の役割が大切になります。人工物はなるべく長く使い、その後もりサイクルするとか、家庭が少しでも分解者の役割を果たせるようにするのが課題となってくるよう思えます。例えば、自分の家で処理できないものは、できるだけ持ち込まないという姿勢が大事のように思えます。こんなことを言えば、それは不可能なことだし、誰でも必要以上に家庭に持ち込んでいないと反発があるかもしれません。しかし、本当にそうでしょうか。日々の自分の行動を思い出してみてください。例えば、物を買う際に過剰包装をしてもらっていないか。すぐ使う物にわざわざしっかり包装してもららう必要はありません。食材も多めに買って、いつまでも冷蔵庫のお世話になって、結果的に捨ててしまったということはありませんか。また、作り過ぎて食べきれず捨ててしまったということはどうでしょう。必要な量だけ買い、必要な量だけ作り、作った物は全部食べる、これが生ごみを減らすコツです。最近はエコクッキングと言って、余り物をできるだけ出さない料理法なども紹介されています。思い出せば誰でも経験したことではないでしょうか。

工場の排水や排ガスが改善してきた今、水質汚染や大気汚染の最も大きい原因は家庭や車に変わってきました。環境問題の解決には家庭の果す役割が重要になっているのです。

## 2 「生ごみのリサイクル～生ごみを自然にかえす～」

それでは家庭で少しでも生ごみを出さないために、自然にならって家庭で分解する方法を考えてみましょう。

家庭から出るごみの量の約3分の1は生ごみと言われています。もし、生ごみを家庭からご

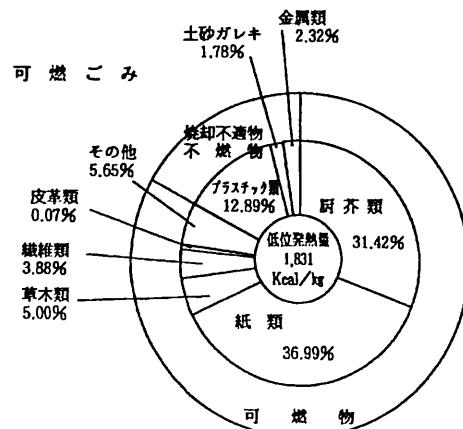
みとして出さなければ、ごみの量は随分と減らすことができます。

生ごみも地面に埋めれば自然にかえすことができます。しかし、ただ地面に埋めればよいかというと必ずしもそうではありません。その土の性状などによって自然にかえる速さが異なります。林の中では積もった落葉の層が、上から下に向けて次第に細かくなっている様子は観察会でも学べますが、それは長い年月をかけて落葉を分解してくれる生物相ができあがっているからです。

家庭の土でも、生ごみを分解してくれるようなよい土壌では速い分解が期待できますが、そうでなければ半年、1年経っても埋められた生ごみはそのままということもありますし、腐って嫌なにおいを放つこともあります。

## 平成9年度可燃ごみ組成試験結果

(湿基準・重量比)



\* 湿基準：ピット（焼却工場内のごみ貯溜所）内のごみを十分かく拌し20kgを採取し、そのままの状態の資料を分析調査したときの値。

名古屋市環境事業局の事業概要より

## 3 生ごみの分解をはやめるためには

生ごみをごみとして出さず、家庭で処理するためには生ごみの分解を速めてくれる微生物の助けを借りることが必要となります。ボカシが良い例でしょう。EMボカシは琉球大学の比嘉

照夫教授が発見されたEM（有用な微生物群；Effective Microorganismus）を米ぬかなどの基材に植え付けたものですが、一般にボカシとして売られています。このEMボカシは、自然界に存在する光合成細菌、放線菌、酵母菌、乳酸菌など80種以上を一緒にしてあるそうです。私は、EMの中身を分析したことはありませんが使ったことはあり、その結果、次のことは確かなことと思っています。

#### ①生ごみをごみとして出さずにすむ

ボカシは、密閉容器の中に入れた生ごみに振りかけて使います。生ごみ自体をボカシで堆肥化するため、生ごみをごみとして出さずにすみます。このことは、生ごみを台所から流すこともないため、川などを汚さずにすみますし、焼却場で燃やされることないので大気も汚さず、埋立処分場の延命にもつながります。

#### ②ボカシあえ（生ごみをボカシで発酵させたもので、これをボカシあえと呼ぶ）は、土壤改良や良い肥料になる

生ごみをボカシであえたものをボカシあえと言いますが、生ごみはボカシを入れると発酵し土に埋めると早く分解し、その結果土が良くな

ります。また、そこに植物を植えると、他に肥料を使わなくても植物は良く生育します。

このため、トータルに考えて、ボカシは環境にやさしいものと言うことができると思います

ボカシを使う生ごみの処理は、EMボカシが嫌気性の菌が主体のため、密閉式の容器を使うことが必要です。その他の生ごみ処理の方法としては、以前からあるコンポスターを使う方法（好気性の菌が主体となります）や生ごみ処理機を使う方法（好気性の菌を利用したり、温風乾燥する方法）があります。生ごみ処理機を使う方法は、器具の値段が高かったり、電気代も必要なため、手軽にやるにはボカシがやりやすいと思います。ただし、やりっぱなしはダメです。生ごみの発酵中に、特に夏場はよく発酵液が出てきますのでこまめに抜いてやらなければなりません。これを怠ると、嫌なにおいが強くなります。

時には、観察会の中で微生物による葉などの分解の話のおりに、家庭から出る生ごみ処理の方法をしてみてはいかがでしょうか。もっともそのためには、まずご自身でボカシによる生ごみ処理を試してみることが必要です。

## 会員近況

3月に会員の皆さんに葉書をお送りして、会への意見や近況を書いてくださいとお願いしたときに寄せられた近況です。

なお、年一度葉書をお送りしているのは、協議会と会員を結ぶものとして活用していただきたいとの願いですが、協議会の見直しの時期でもあり、方法を検討したいと思います。

＊＊＊＊

昨年度定年退職し、現在は豊明市の障害教育等市史編さん等でお世話になっています。

仕事は市史の編さん、ハイケボタルの繁殖、ナガバノイシモチソウの保護などです。自然保護活動では教職員の理科研修（自然）活動、市内家庭教育活動の研修、小学生の自然観察クラブの研修などの依頼を受けて出かけています。特に今年度は陸産貝類、水生昆虫、淡水性魚類などの調査に取り組んでいます。なお、できれば古い池のボーリングによる昆虫等の調査が出来たらと考えています。

〔浅井常典〕

観察会と森づくりの実践とでがんばっています。もうひとつ観察会を発足させようと準備中です。

〔近藤記巳子〕

ここ2年ほど「藤前干潟を守る会」でどっぷり泥にはまっています。陸上の観察会とはことんごぶさたの今日この頃です。去年は、NACS-J、WWF-J日本野鳥の会と共に広島五日市、東京湾葛西海浜公園、大阪南港の人工干潟生物調査を行い、12月に最終報告(\*)を出しました。この人工干潟の調査報告書は、環境庁他名古屋市、愛知県等に提出したのですが、人工干潟は藤前干潟の代償になり得ないという当たり前といえば当たり前の結論になりました。ちょうど同じ時期に環境庁が人工干潟に否定的な見解を示し、それからですね、藤前埋立から保全へと急展開で流

れが変わったのは、諫早の閉め切りから2年、人々の思い、時の流れが、藤前を守ったのだと思っています。先日、藤前の堤防に座って、春の日差しを浴びながら、干潟でせっせと餌をついばんでいる鳥達を眺めていたら、この風景を来年も再来年もずっと眺められるのだなあと、じわっとうれしさがこみ上げてきました。これまでゆとりのない日々だったけれど、これからはじっくりと、そして楽しく藤前の生き物たちと付き合っていきたいものです。

(\* この報告書を実費でお分けします。

2,000円 72ページ 手作) 〔鈴木見子〕

コウモリが飛び始め(3/17)、春を感じさせるこの頃です。協議会の事務局の仕事はとても大変なことと推察します。私などは、機関誌を読むだけの会員で申し訳ないと思っています。でも、そのニュースで読んだことを周りの人に時々話をすることもありますので、多少は自然のことを広げているのかな?とも思っています。雑談の中で自然のことが話

題になるようなことも自然観察と同様に大切な事だと思います。

〔藤原優年〕

健康づくり環境教育の願いを掲げ、自然観察会を頑張っています。なかなか協議会の日程に都合がつかず申し訳ありません。

〔松井寳一〕

3月28日は、協議会の総会の日ですが、アメリカのレキシントンで、日本で環境教育を行っている者の一人としてスピーチすることになっています。レキシントンでは、市長、教育関係者、地元のテレビ局と新聞社が取材にきます。その中で愛知県の自然環境指導員連絡協議会も紹介しようと思っています。キーワードはNature hikesを行っているhands on interaction(実際に体験する自然と人間の相互のふれあい)をやっていることを伝えます。

〔山田博一〕

いつも協力できなくて、この葉書はゆううつです。山の会でも名前だけの会員(活動しない会員)は嫌われます。そろそろ退会したほうが良いのかとも考えています。〔?〕

相変わらず水辺を歩き、ヤナギを見ています。エゾノキヌヤナギは、木曽三川のあちこちに自生していることを知りました。栽培のキヌヤナギと違って、太い幹と細い枝の区別がはっきりしています。キヌヤナギは♂だけですが、エゾは♂♀両方あります。オオタチヤナギは、春の新芽が黄色で美しい品種が栽培されていますが、オオタチの自生を捜しています。それらしいものはあるのですが、まだ確認できません。

〔佐藤徳次・顧問〕



# 山びこ広場

## ★愛知県環境部（環境管理課）発行資料

### ①「地域環境誌」

○4分冊、尾張西部・尾張東部・  
西三河・東三河

○内容：地域環境の状況、環境保全の取組  
○A4版 10ページ 発行 11年3月

### ②「ビオトープづくりのABC」

○内容：ビオトープとは、基本的配慮事項、  
事例

○A4版 46ページ 発行 11年3月

※事務局へ問合せていただいても結構です。

## ★環境問題映画会

○期日：7月31日（土）、8月1日（日）

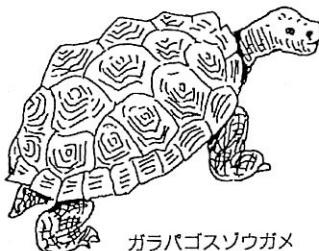
○場所：名古屋市科学館

○内容：第7回地球環境映像祭入賞作品  
(ブナと修羅、海、巨樹、環境ホル  
モン、ガラパゴス等)

\*7/31と8/1にそれぞれ別の作  
品5本ずつ

○申込：7/23までに、名古屋市科学館「生  
きている地球の記録」係まで往復葉  
書で申し込む。

○主催：東海財團・名古屋市科学館・中日新  
聞社等



ガラパゴスゾウガメ

## ★自然と触れ合うネーチャーゲーム

○7/17(土) 18:00～ 平和公園

○10/24(日) 10:00～ 森林公園（全国一斉）

○1/30(日) 10:00～ 牧野ヶ池

○主催：なごやネーチャーゲームの会  
(越田 TEL0561-84-9352)

## ★屋久島環境文化センター主催

### 「自然体験セミナー」

7/16～18 スノーケリング、磯の観察

8/5～8 ウミガメ観察、屋久杉の森探検

9/16～19 岳参り体験、古老と語る

10/22～24 屋久杉と里の古樹、照葉の森観察

11/12～14 森林軌道散策、ヤクスギランド観  
察

12/2～5 ネーチャーフォト、スターウォッ  
チング

(1月から3月も計画あり)

\*定員 各20名（先着優先）

費用 15,000円程度（宿泊費）

同センター TEL09974-6-2900



このコーナーは会員の皆さんと情報交  
換の場所です。会員に呼びかけたいこと、  
催し物紹介等何にでもお使いください。自  
然関係意外でも結構です。

（この文書は、名古屋市環境総合センターの運営する「環境の会議」の議事録を元に作成されたものです。）

## 〔行事結果〕

### ★ 通常総会

〔期日〕 平成11年3月28日(日) 13:30～

〔場所〕 産業貿易館 (出席11名)

#### 〔議案〕

① 前年度事業報告	② 前年度決算
③ 本年度事業計画	④ 本年度予算
⑤ 役員の任期の延期	

〔講演〕 「アマゾンの自然」 大竹会長

#### 〔結果〕

総会は、各議案とも原案通り可決されました。（決算の数値が一部違っているという、事務局の不手際などもありました。）第5号議案は、会長などの役員の任期が前年度末で切れますが、協議会の組織等の見直しに伴って役員構成が変わる可能性があるため。1年任期を延長したものです。

総会終了後は、アマゾンへ3ヶ月ほど出かけられた大竹会長の話をスライドを交えてお聞きしました。その後は、例によって希望者で懇親会場へ移動しました。

### ★ 組織検討委員会

⑤ 〔期日〕 平成11年5月1日(日)

〔場所〕 中小企業センター

⑥ 〔期日〕 平成11年6月6日(日)

〔場所〕 名古屋市公会堂

来年が会の発足20周年のため、新しい協議会に生まれ変わらべく、委員会を設けて検討しています。委員会も会を重ね、新しい組織の概要が見えてきたようです。今までの結果をまとめて、次回の機関誌で紹介し、皆様のご意見をいただきたいと思っています。

### ★ 普及部会

〔期日〕 平成11年6月19日(土)

〔場所〕 名古屋市公会堂 (出席8名)

議題は、今年度の今後の事業の内容と来年の20周年記念事業の進め方の2点について検討しました。

今年度の研修会は、フォローアップ研修会を中心進め、他の支部の会員との交流の場としての意味を持たせて行い、基礎研修会では、「子ども対象の指導方法」をテーマに12月23日に行うこととしました。その他、カエルの観察、観察グッズ、昆虫などの研修の希望が出ました。

20周年記念事業は、来年の秋に実施することとし、内容は平成2年に行った10周年事業に習って、基調講演と意見交換会などとし、150人程度の会員を集めたいものとしました。また、その前の観察会を20年記念観察会としてスタンプラリーなどを取り入れて、盛り上げたいとの方向も出されました。今後の実施体制については、記念行事実行委員会を設置して行うこととし、委員長に大谷敏和さん、副委員長に井城雅夫さんを決めました。

### ★ 研究会「自然観察会の記録」

〔期日〕 平成11年4月29日(日)

〔場所〕 中小企業センター (参加5名)

せっかく定例観察会として、特定の場所で観察を行うならば、その記録を工夫して後日役立つものにできないものか、研究会を行いました。野鳥の会などは、探鳥会終了後、鳥合わせをして、観察した種名を確認しますが、自然観察会は分野も広く、内容も指導員の個性でまちまちであり、結果のまとめ方も難しいものがあります。協議会としてもマニュアルとまではいかなくても何かまとめてみたいと思ったのですが、多様なものを整理するのは、難しいようです。当日の意見



などを踏まえて、次の機関誌で、現時点の考え方を整理してみる予定です。

### ★ 観察研修会

〔期日〕平成11年5月8～9日(日)

〔場所〕桶ヶ谷沼・蕎麦粒山 (参加7名)

無人の山小屋に泊るという、今までの観察研修とは異なるものを計画してみました。初めに、静岡県の桶ヶ谷沼に寄り、地元の今村さんに案内してもらいました。桶ヶ谷沼自体はかなり大きな池で、その周囲を歩くのに相当の時間がかかります。アシなどの生えた池の周囲は、コナラ・アカマツの二次林やシイ林があり、なかなかいい環境でした。皆さ

んお日当のベッコウトンボもじっくり観察できました。

その日は、南アルプス深南部にある山犬ノ段の小屋まで長い長い林道を車で登って泊まり、翌日は蕎麦粒山を一回りしました。事務局の不手際でシロヤシオの花の時期を間違えていたため、たくさんあったシロヤシオもその蕎はまだ固かったのですが、新緑のみずみずしい景色を十分堪能でき、アカヤシオの花もわずかに見ることもできました。昨年の台風の影響は大きく、太いウラジロモミやブナが相当倒れていきました。こうした影響で、後継者の育っていないブナ林がますます寂しくなるよう気になりました。

~~~~~

### 〔会員の意見から〕

3月に葉書をお送りしたときに寄せられた会に対するご意見等と事務局の考え方を次にまとめます。

◎ ◎ ◎ ◎

- 会の運営について、いつどのように行われているのか会員でありながら知りません。機関誌にも載っていないようですが。(現在の会の運営は、基本的には理事会と各部会で検討して決められています。その状況は、機関誌でお知らせしている積りですが、まだ不十分なのかもしれません。また、会の行事などの決定が事実上事務局中心となっている傾向もあるようです。現在進めている会の組織の見直しにおいて、会の意思決定のあり方とその会員への連絡の仕方についても検討していきます。)
- 11年度事業は例年より少ないように思います。支部主催行事への振替でカバーしているのでしょうか。(現在、会の組織を検討している時期であり、11年度は新しい事業は見合せたこと、調査結果や年報の作成など積み残していることを済ませるのを優先したことなどにより

本年度は事業を少なめにしています。ご了解ください。)

- 各支部との交流を具体的に進めて欲しい。支部の例会等に他の支部の方も出席して、結果を支部に戻って伝えたり、交流の結果をうまく情報として流すなど。(支部間の交流を進めるために、研修会を支部主催にしたりしていますが、支部の体制の問題もあるかと思われます。大切なことですので今後も考えていきます。)
- 新しく加入した人に多くの観察会に出てもらったり、従来の新人研修を年間を通じて行ったりしてはどうか。(活動できる指導員を増やすこと、レベルの向上は大切と思い、ある程度は実施してきたつもりですが、今後は新しい体制の中で方向を見出していくたいと思います。)
- 情報は活用されることが大切であり、会の情報も必要な人に速やかに流すことが、会の活性化につながると思う。(現在は、会の情報は同じように各会員に流すことを考えています。情報提供のあり方も今後の重要な問題だと思いますが、当面は情報を如何にうまく集めるかから始める必要があるようです。)

- 会員の活動はほとんど支部で行っているので、組織活動は支部中心とし、協議会は連絡などを主とし、事務局は会長宅に置くのはどうか。また、年1回、会員大会を開催してはどうか。

(協議会の性格をどのようにするかは多くの意見があると思います。全国的な傾向としては、観察会などの活動は指導員が自主的に進め、連絡会はその連絡調整機能を持つべきとの意見が多いようです。しかし、自然の大切さを多くの人に正確に伝えるためには、個々の活動だけでなく組織として行う部分も必要とも考えられます。会の性格は、会員の総意で決めることですが、今の協議会には会の方針等を会員に伝えたり、会員の意見を運営に生かす機能が弱いようです。そうした点も含めて組織の見直しを図っていきたいと思います。会員大会は、総会がその役割を果たせばよいのでしょうか、総会にそうした魅力を持たせられないのは、事務局の弱さと怠慢だと思います。併せて検討していきたいと思います。)

- 自然観察会に参加して感じることは、参

加者が余りにも植物名にこだわり、自然の仕組みに無関心なことです。これらは、生活環境が整い過ぎているからでしょうか。自然界に生きる輩として、先ず自分を護ることから考え、知恵を働かさねばならないのですが。

(自然観察会活動としては、自然に親しみ関心を持つ人を増やすとともに、自然の仕組みや自然環境と人の関わりについての正確な知識や思考を持つてもらうことも必要と思われます。従って、自然の好きな仲間づくりとともに、社会教育としての面も欠かせないはずです。しかし、複雑な自然現象と多様な価値観の中でそれを進めるためには、指導者としての我々がいろいろなことを学び、考え、それを分かり易く楽しく伝える技術を身につける必要があります。協議会の役割には、そのための意見交換や研修の場、情報の提供があると思いますが、20年の会の歴史の中で事務局員などが古くなりマンネリ傾向が出ているようです。新しい人の参画を得て活性化する中で、初心に返って考えていいきたいと思います。)

~~~~~

### [ベイトラップ調査]

前にもお知らせしましたが、昨年度に続いて本年もベイトラップ落下昆虫の調査を行っています。今年の前半は事務局の怠慢もあり、十分なPRもできませんでしたが、9～10月の秋の調査には、どんな形でも結構です

から、身近な場所で調査されて、結果をお知らせくださいようお願いします。

前年度の調査は数が少なく、結果も十分まとめていませんが、お送りいただいたもの一部を紹介します。

市町	環境	種名	数
豊橋	人工林	クロシデムシ	17
"	"	コクロシデムシ	6
"	雑木林	ヨツボシモンシデムシ	1
"	人工林	"	2
"	人工林	センチコガネ	12
"	雑木林	マルガタヒラタゴミムシ	1
"	人工林	"	10
"	"	オオヒラタゴミムシ	6
"	雑木林	エンマムシ	4
"	人工林	"	10
"	"	アカバハネカクシ	13

市町	環境	種名	数
東海	雑木林	ミカワオサムシ	2
"	"	セアカヒラタゴミムシ	3
"	"	オオヒラタゴミムシ	1
"	"	オニナガエンマムシ	3
"	"	フトカドエンマコガネ	1
"	"	ツヤエンマコガネ	3
"	"	ヒメタイコウチ	1
日進	雑木林	センチコガネ	4
"	休耕田	"	2

\*調査は、各地とも数回

## 定例観察会から

相生山緑地 5/23

林縁を歩きながら、つる植物をさがしてもらう。「右巻き？ 左巻き？」をテーマとしたのは、どのようにつるが巻き付いているか観察してもらうため。茎で巻き付くもの（ヘクソカズラ・ヤマノイモ・クズ・フジ・カナムグラ・アケビ・ヤブマメ・ツルウメモドキ・アオツツラフジ）、葉で巻き付く（カニクサ・ヒヨドリジョウゴ）、刺をつかう（イシミカワ）、巻きひげ（カラスノエンドウ・ヤブガラシ・サルトリイバラ・ノブドウ・キレハノブドウ・エビヅル・スズメウリ・カラスウリ）、付着根（ツタ・キズタ）などが観察できました。

大森湿地 6/ 6

「川の中の生き物」をテーマに、川に入つて観察する。カワニナ・ゲンゴロウ・ヒメタイコウチ・オニヤンマのヤゴ、もういなくなつと思っていたホトケドジョウ、たくさんのアメリカザリガニなどを見つける。また、朝食用？のカエルを捕まえていたヤマカガシにも出会う。

今、大森湿地で頭を痛めているのは、昨年冬に泥だらけになって除去した新池のスイレンが、今年も芽を出してきたことです。一部はさらに除去しましたが、深い所は抜き取ることができず、このまま放置すればどんどん株が増えていくばかりです。また、北米産のモウセンゴケも同様で、94年以来毎年毎年目を皿のようにして、見つけ次第抜き取りましたが、それでも今年はまた数十株抜き取るありさまで。何かよい対策は無いものでしょうか。

東山公園 6/20

「水辺の生き物の観察」をテーマに、湿地や沢止め池で観察しました。池ではヤブヤン

マのメスが池の縁の上手で産卵していました。林縁の水たまりでは、イトトンボやオオシオカラトンボのヤゴ・ヒメタイコウチなどが見られました。また、池ではヒメコウホネが黄色の花を咲かせていました。いつも水の中に潜って目立たないこの水草の花で、この時期だけこの色気のない池が華やぎます。しかし、雨による増水で一部の花は水の中に咲いていました。水中では虫媒による受粉が期待できずに困っていることでしょう。

例会「トウキヨウサンショウウオ」 5/16

トウキヨウサンショウウオは、愛知県では渥美半島と豊田市・刈谷市・豊明市・瀬戸市・名古屋市・知多半島などの丘陵地に生息している。止水性のサンショウウオで、産卵は湧き水の流入するような湿地・水たまり・水田などで行う。繁殖期以外は陸上で生活し、湿気のある雑木林、竹藪、草叢などの落ち葉の下や地下につくる小動物のトンネルなどを利用して生活している。昆虫やその幼虫、ミミズ類などを食べ、夜行性（雨天ならば昼間も活動）なので、成体の発見は繁殖期以外は困難である。産卵は南部で2月下旬から3月上旬、名古屋などでは3月中旬以降となり、バナナ状の卵のう1対を水たまりの草や枯れ木に付着させる。生息状況の確認はこの時期にしかできない。

トウキヨウサンショウウオの生息地はこのように人の生活場所と近いため、近年の宅地開発などにより、生息地が急激に減少したり、悪化したりしている。名古屋市内では、八事・大森・吉根・平和公園・猪高緑地・明徳公園などで生息が確認されているが、生息地としての環境はいずれも良好とは言い難く、最も絶滅の危険の高い動物の一つといえよう。しっかりした保護対策が急がれる生物である。

## 定例観察会から

善師野 4/24

前回に続き雨の観察会となりました。アマツバメの群が雨の中を次々と南西へ渡って行きました。私たちも雨の中で、エンドウ三兄弟の見分け方に真剣でした。花や実の違いだけでなく、葉や巻きひげでも見分けられます。そして、雨の中でも花のシーズン真っ盛りなのに気が付きます。大洞池を過ぎた頃から雨が上がり、待ちわびた青空が広がりました。すると、待ちわびていたのは、私たちばかりではありません。オオタカやサシバが食料を求めて飛び出しました。そして、急に周りが新鮮に輝きました。

本宮山（犬山市委託）5/16

5班に分かれて出発し、シュレーゲルアオガエルやアマガエルの声に出迎えられて、ヒトツバタゴの自生地を目指す。満開のヒトツバタゴを一目見たいという人と車の波が引きも切らず混雑していた。ヒトツバタコか畑に植えられ、近くでは軽トラックにヒトツバタゴを満載して販売している。自生地のヒトツバタゴが枯れても苗があちこちに広がるのを良しとするのか？ いやはや……である。ヒトツバタコは、昨夜来の雨で散り始めていたが、純白の綿帽子とその裾を飾る満開のカザグルマが印象的でした。しかし、柵の周囲は人の足で踏み固められて乾燥し、また体調を崩す木が出てくるのではないかと危惧される。

築水池周辺 5/23

チップが敷かれた階段途中の斜面に、オオバウマノスズクサが一面に奇妙な花をぶら下げるつるをはびこらせ、ギンメックゴミグモが膨脹のように巣を守っていました。C湿地入口の遊歩道は、湧水で湿地と化し、ヒメタイコウチが踏まれてしまうのではと気掛かりです。この湿地も今後が気になる場所です。

森林公園 6/ 6

虫こぶや葉の食い跡を探しながら歩いていたら、木の陰に思わぬ狸の糞が観察できた。直径50cmほどに砂が広がっている。砂をかける習性はイヌ科だからかな？ 糞を転がしてみたらベッコウヒラタシデムシと幼虫が這い出してきて、運（糞）良く見られた成虫に目がいく。（昨年落ち葉の下で幼虫は見つけていた）頭部がオレンジ色のシデムシで糞や生ゴミにも来る仲間らしい。

明徳公園 6/ 9

4月にナフシムシの赤ちゃんがアカメガシワの木にいたのを観察していたので、今日はナナフシ探しをしてみました。アカメガシワをじっくりと見回しながら探すこと約1時間。参加者もだんだん眼がなってきて2匹、3匹と探すことができるようになり、全部で15匹も見つけることができました。森の忍者もたくさん的眼にはかなわないのだと思いました。アカメガシワの葉の上には、かわいいマダラアシナガヤセバエもいて、きらきらと光っていました。

定光寺 6/12

子どもは、虫を追いかけたり、探したり、触ったり、あるいは実を食べたりすることが大好きである。観る訓練をしなければ、観えるものはとても少ない。何となく歩いていて目にとびこんでくるものは、花や葉の色だけである。それに終ることなく、生き物と生き物のつながり、生き物の生活の知恵などが読み取れる観察会を目指したいと思う。観察したものは、ゴミグモの忍者、ゾウムシの死んだふり、エゴノキのオトシブミ、葉の裏のホタル、産卵中のシオカラトンボのメスにオスが寄り添うことなど。イチゴの実もいくつか食べれた。

## 竹島の観察会から

期日 1999.4.29

場所 蒲郡市 竹島

参加者 37名 指導員 18名

今回の観察会は当初雨の予想でしたが、五月晴れとなり、空気は澄んで、風は気持ち良く、爽快な日となりました。ただ、あまりに天気が良くて行楽日和のため、参加者が予想よりやや下回ってしまいました。

## 〔観察ポイント〕

① 竹島はみんな森	② 照葉樹林
③ 潮風に強い植物	④ 磯の生き物
⑤ 島で見られる鳥	⑥ 島をつくる岩石

## 〔参加した指導員の感想〕

- ・ たけのこ梅雨の晴れ間。メンバーに恵まれた最高の条件の観察会であった。それでも潮干狩りの人々の多さには圧倒されます。
- ・ 竹島の観察会は、支部結成第一回の観察会として1983年に行って以来、何回目だろうか。今回も天候に恵まれ無事終了したが未だに初見の生物との出会いに楽しみは付きませんでした。
- ・ これだけ透明な空気と水を見るのは久しぶり。緑の変化も最高。若い人達の参加が多くかったのは心強かった。宣伝活動の効果が認められたかな? 磯は楽しい。
- ・ 森と海の両方を同時に観察でき、特に森は天然記念物として、木の遷移を観察するのに良く、磯は多くの生物が見られたが、名前を覚えるのに大変。
- ・ 林や潮だまりなど変化があって興味深かった。希望を言えば、ムラサキイガの出現、海の生物の変化と人との係わりについて触れれることも自然を知る上で必要と思います。
- ・ 抱き抱えるほどのカラスザンショウの大

木は素晴らしい。根元は親指ほどのイボイボがあり、20m上空の枝にはサンショウ特有のトゲトゲがある。その時ヒイラギの古木を思い出しました。

- ・ 本年度第一回目の観察会。内容的にあまり欲張らずにやったのが大変良かった。子どもの参加者を増やすよう努力したい。

## 〔参加者のアンケートから〕

## ●観察会の経験は?

初めて	15名	2回目	5
3回目	4	4回以上	3

## ●特に印象に残ったもの

磯の生き物	26	岩の色の違い	4
竹島の森林	4	他	3

## ●参加者の声

- ・ 説明を受けてもすぐ忘れてしまいます。これからも参加して、東三河の自然を楽しみたい。
- ・ 当日までの準備が大変だったでしょう。植物・島などの情報を得たりして楽しかったです。
- ・ 会の皆様の努力に感心させられました。これからも永く続けられることを願っています。
- ・ 竹島の樹木については何回か観察していましたが、今日は、生態についてや今まで見なかった季節の姿について観察でき、収穫でした。
- ・ わから易い説明でよかったです。
- ・ 竹島の観察会に前から参加したいと思っていましたので。今日は楽しみにしていました。いろいろ教えていただいてもすぐ忘れてしまうのが残念です。何度も参加したいと思っていますので、よろしくお願いします。

## 行 事 案 内

### ☆フォローアップ研修会「植生調査」 -尾張支部担当-

期日：平成11年6月27日（日） 9：30～14：30

場所：築水池周辺（春日井市）

（集合場所は、少年自然の家入口より北の三角駐車場）

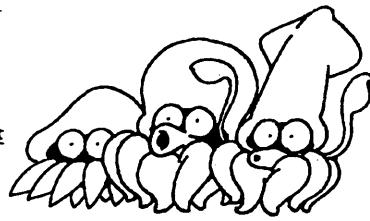
### ☆フォローアップ研修会「海の生物」 -知多支部担当-

期日：平成11年8月8日（土日） 10：00～

場所：南知多町大井漁港駐車場に集合

服装等：半ズボン、運動靴、長靴（×サンダル）、昼食

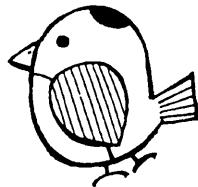
その他：知多半島自動車道は渋滞（半田街道が適）



★問合せ先：佐藤（☎05617-3-5674）まで

### ※編集後記※

愛知万博の会場予定地『海上の森』でオオタカの営巣が確認され、たったひとつの巣が、愛知県を始め、関係者を右往左往させています。当初の調査で見つからなかったことについて調査の不備等の指摘もされていますが、調査のむずかしさも浮き彫りにした感じです。



自然との共生をテーマにした万博ですが、自然と共生するとはどういうことか、改めて考え直すことが求められています。

体の変調を来す時期です。お体に気をつけご活躍ください。また、皆様の原稿お待ちしています。

（近藤）

### — 目 次 —

哺乳類の話②	1
トウキョウサンショウウオを守るために	
ATSネットワークに参加して下さい	3
生ごみのリサイクル	4
会員の近況	6
山びこ広場	8
事務局から	9
支部だより	
名古屋支部	12
尾張支部	13
東三河支部	14